會社側が復職[illegible]て自動車で職工の自宅訪問をして居るのを見て壓迫々々と大書して友愛會事務所及び各支部事務所に貼出した

十六日には全員出揃ふ

現在の交代では勤まるまい

十二日午前中の調査に依ると春日出發電所の復職職工は三百八十九名中二百十二名、安治川

發電所 の方は四百五十餘名中百五名に達して居る、會社側の聲明する處に依ると來る十六日迄には理想的の人員を收容し得る自信があるとの事である、但し

收容し 得るとしても現在の如き二交代で作業を續ける事は到底不可能であると一消息通は語つて居た

解職手當の日數算定に

職工の氣配を窺ふ

十一日午後から大電本社で開かれた課長會議の席上解職手當は工場法の規定に基き十四日以上の日給を支給する事と決定したのであるが十四日以上何日迄を支給すればよいかに就ては未だ重役に諮つて居ないので十二日正午迄には確定して居なかつた會社としても此際餘程慎重な態

の席國粋會理事山村森藏氏が西尾友愛會主事と會見し調停の勞を採つたが西尾氏は明日を期して別れた爲國粋會の方では十二日午前十一時西尾氏を自動車で其宅に迎へ直ちに西區築港三條通

代議士 樋口伊之助氏自邸で榊辰之進今北治作外十數氏と會見し國粋會の方からは今回の大電爭議に對する動機友愛會との關係第二回の要求提出に到つた經過に就き質問する處あり西尾主事より拒細漏さず說明し午後二時少憩の後双方協議する事となつたが友愛會側では

協議の 結果を會員にる（午後二時半）

頗る平穩無事

警戒も至極に寬大で

演說も靜かであつた十一日夜の

罷工團主催 大電問題演說會

問題となつてゐた大電罷工團主催の大電問題演說會は十一日午後六時半折柄の小雨中に天王寺公會堂で開催された。罷工費用として一人前三十錢宛徵收したが夫れでも入場者千五百名約八百名の電業員は階下に其他は階上に陣取ると

所轄戎署では魚森署長以下物々しい警戒振を見せてゐたが私服正服の警官等何れも成る

國粋會から會社に諮る豫定である

安治川の澤田繁次君が司會者となり開會の辭を刷毛工藤澤猛司君が述べる。次に安治川發電所の中山五郎兵衛君が滑稽賑で笑はせ稻本喜兵衛（安治川）君機械工片島君が出る

片島君はパンの爲や酒の爲めに裏切るものは棄てゝ置けと

やつて露國や支那の革命はとやつて注意され松原君（安治川）は首を切られたんだからどんちんかんをやるかも知れぬとの前口上に吾々の首を切るは會社の首を切ると等しいとやつてのける

次に飯原君（安治川）が出て平井才一君（造船工）が宣言書讀み桑次郎（機械工）小島源太郎（春日出）君とが出た頃から盛んに野次り出して猛烈にやれなどとやる。友愛會の野田伴太君が讃美歌だと言つて勞働歌を歌つて喜ばせ

夫れから次々に辯士が出て中には島種吉君（友愛會）の様に爆裂彈だの飛行機だのと脫線する

東京勞働組合の平澤敬七君は

に穩便な處置に出たので然らざれば大阪中を眞暗にしたのだと怒號し東京に於ける罷業の經驗から對家庭、對罷工、對警官を述べる

恰度此時である樂屋へどや〳〵と這入つて來た國粋會の六人が「此仲裁は俺達に任せて呉れないか」と申出でたが猶熟慮してお返事すると温和に拒絕した。猶エルエル會の連中などの姿も見ゆ初めた。斯くて次々に伊藤政次（屋外勞働）上野（造船工）藤岡文六（神戸友愛會）竹内（友愛會）桑原（印刷工）諸君

次々に演壇に起つたが安藤君（伸銅工）東君（友愛會）などの大立者が出て聽衆は無暗矢鱈に喝采して喜んだが豫期した程の騷ぎも無く最後に西尾末廣君（友愛會）は

「會社は今苦境にあるのであるから諸君は決して中途で挫折してはならない」

たが此日企業立憲勞働其他から數十圓の同情寄附金があつた

此日の警戒振は非常に寬大で豫期に反して何等の事故無く一同は勞働歌を高唱して散會した